

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 9 月 22 日 (2011.9.22)

【公表番号】特表 2010-535903 (P2010-535903A)

【公表日】平成 22 年 11 月 25 日 (2010.11.25)

【年通号数】公開・登録公報 2010-047

【出願番号】特願 2010-520286 (P2010-520286)

【国際特許分類】

C 0 9 B 57/00 (2006.01)

G 0 1 N 21/78 (2006.01)

G 0 1 N 33/66 (2006.01)

G 0 1 N 33/483 (2006.01)

C 0 7 D 295/22 (2006.01)

C 0 9 K 11/06 (2006.01)

C 0 7 C 311/29 (2006.01)

C 0 7 C 303/40 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 B 57/00 C S P Z

G 0 1 N 21/78 C

G 0 1 N 33/66 A

G 0 1 N 33/483 C

C 0 7 D 295/22 A

C 0 9 K 11/06

C 0 7 C 311/29

C 0 7 C 303/40

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 8 月 4 日 (2011.8.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化合物：

【化 1】



(式中、 $R^1$  及び  $R^2$  は独立して、H、陰イオン基及び反応基から成る群から選択されるが、但し、 $R^1$  及び  $R^2$  は、少なくとも 1 つの陰イオン基及び少なくとも 1 つの反応基を総じて含むものとし、M は対イオンである)。

【請求項 2】

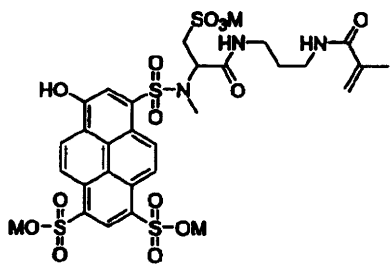
前記陰イオン基がスルホン酸 ；及び / 又は

前記反応基が、アクリロイル、メタクリロイル、アクリルアミド、メタクリルアミド及びスチリルから成る群から選択されるエチレン性不飽和重合性基；又は  
 前記反応基が、カルボン酸、アルデヒド、アルキン、アジド、活性化エステル、スクシンイミド及びニトロベンゾエートから成る群から選択されるカップリング基を含み、該カップリング基が化合物をポリマー又は支持体に結合させることを可能にする基；又は  
 $R^1$  及び  $R^2$  が環状構造中で互いに結合する、  
 である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

化合物：

【化 2】

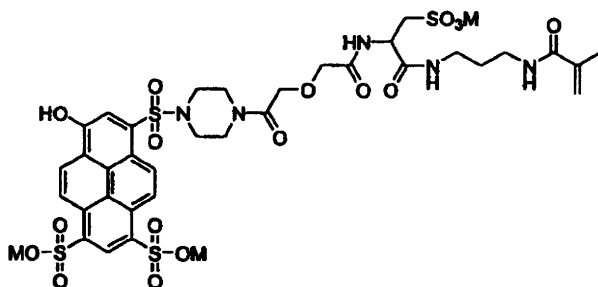


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 4】

化合物：

【化 3】

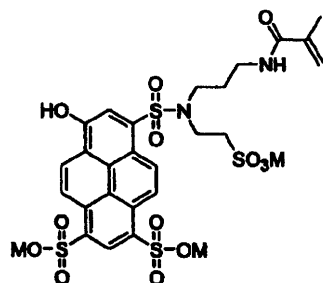


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 5】

化合物：

【化 4】

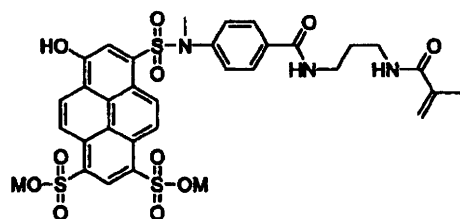


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 6】

化合物：

【化 5】

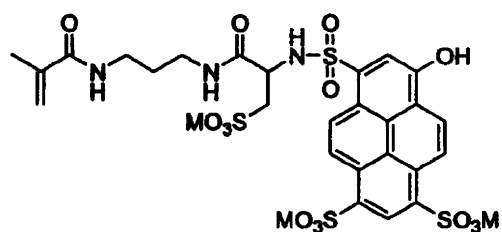


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 7】

化合物：

【化 6】

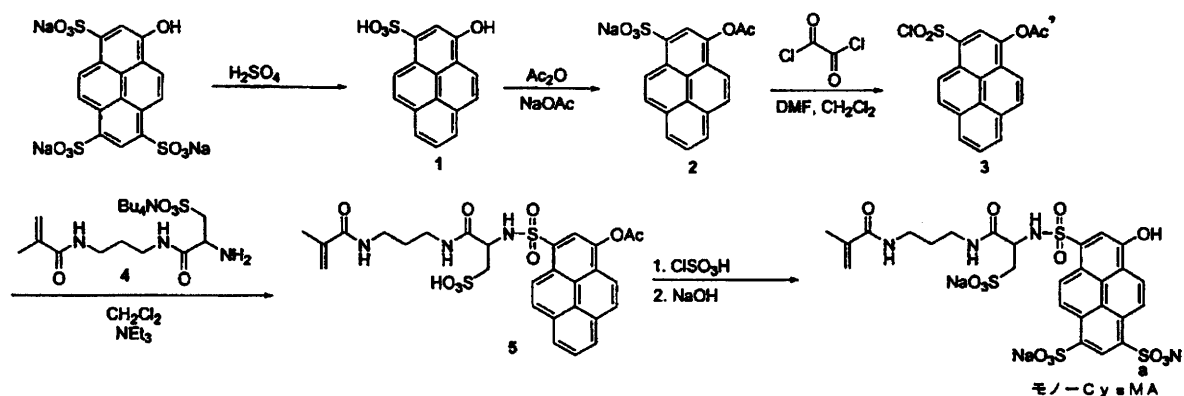


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 8】

下記工程を含む、MがNaである請求項7に記載の化合物を製造する方法。

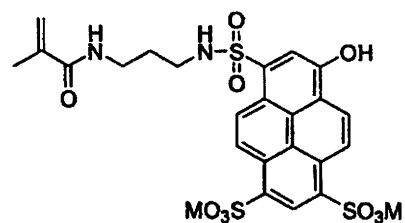
【化 7】



【請求項 9】

化合物：

【化 8】

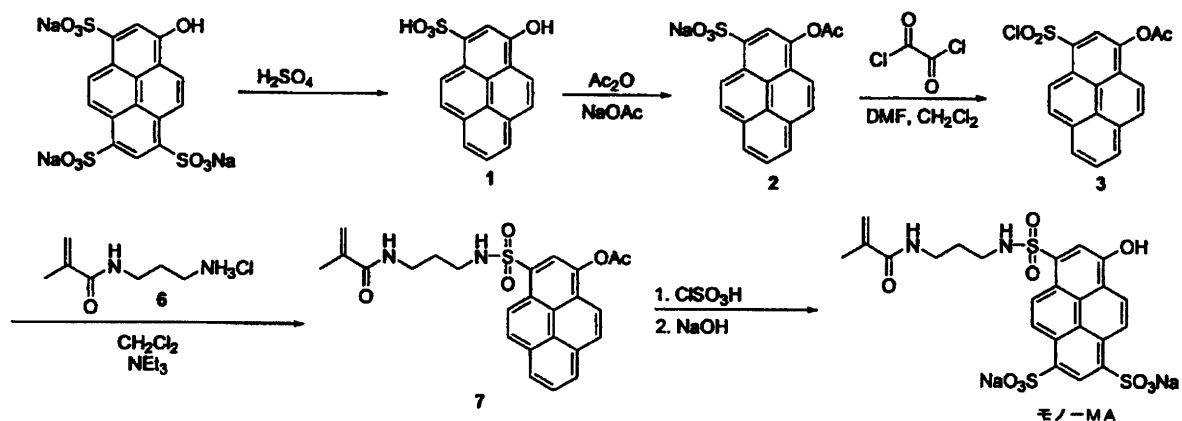


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 10】

下記工程を含む、MがNaである請求項9に記載の化合物を製造する方法。

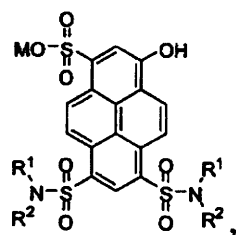
## 【化 9】



## 【請求項 1 1】

化合物：

## 【化 1 0】



(式中、 $R^1$  及び  $R^2$  は独立して、H、陰イオン基及び反応基から成る群から選択されるが、但し、 $R^1$  及び  $R^2$  は、少なくとも1つの陰イオン基及び少なくとも1つの反応基を総じて含むものとし、Mは対イオンである)。

## 【請求項 1 2】

前記陰イオン基がスルホン酸；及び/又は

前記反応基が、アクリロイル、メタクリロイル、アクリルアミド、メタクリルアミド及びスチリルから成る群から選択されるエチレン性不飽和重合性基；又は

前記反応基が、カルボン酸、アルデヒド、アルキン、アジド、活性化エステル、スクシンイミド及びニトロベンゾエートから成る群から選択されるカップリング基を含み、該カップリング基が化合物をポリマー又は支持体に結合させることを可能にする基；又は

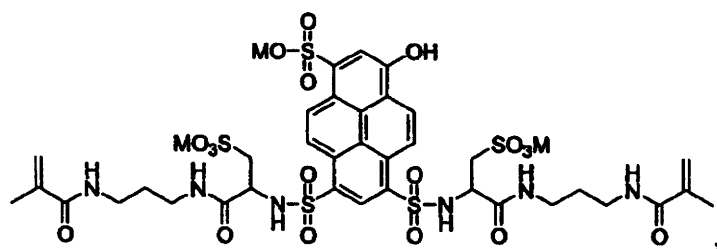
$R^1$  及び  $R^2$  が環状構造中で互いに結合する、

である、請求項 1 1 に記載の化合物。

## 【請求項 1 3】

化合物：

## 【化 1 1】

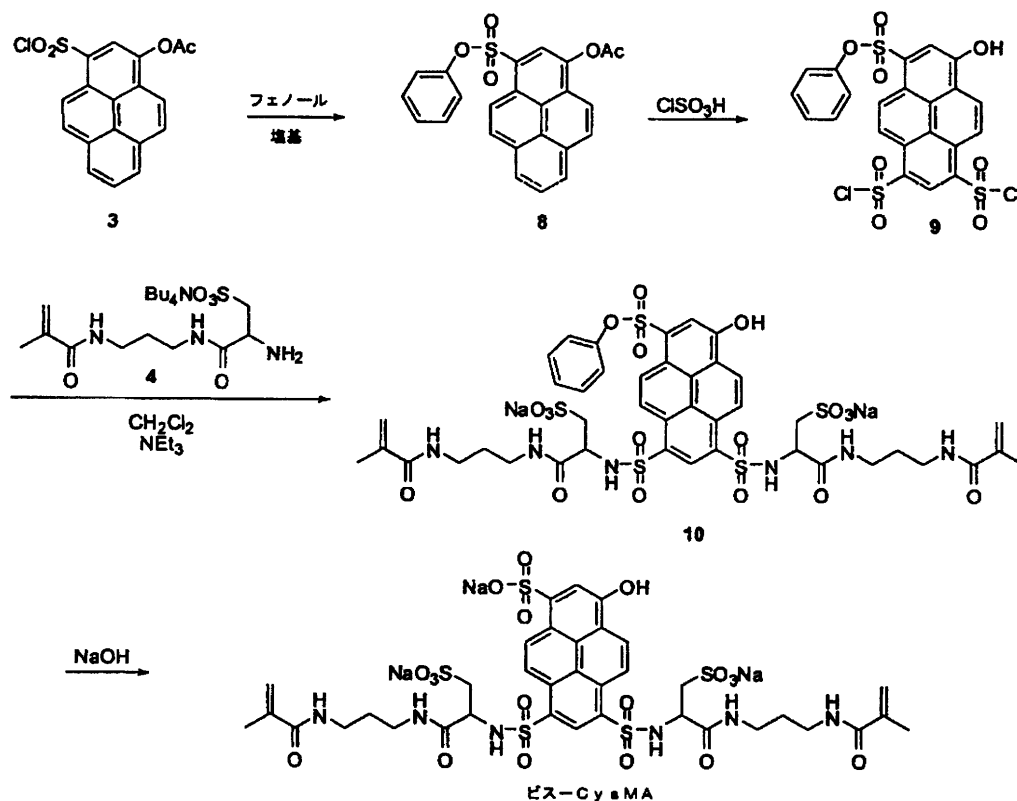


(式中、Mは対イオンである)。

## 【請求項 1 4】

下記工程を含む、MがNaである請求項 1 3 に記載の化合物を製造する方法。

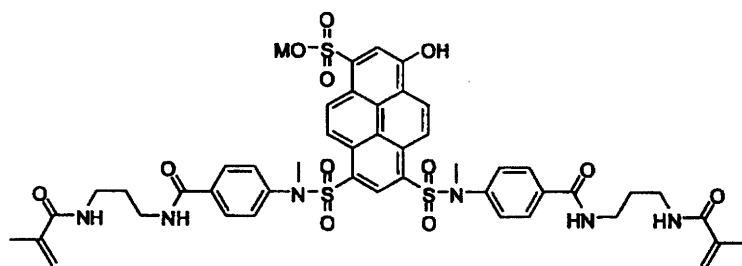
## 【化 1 2】



## 【請求項 1 5】

化合物：

## 【化 1 3】

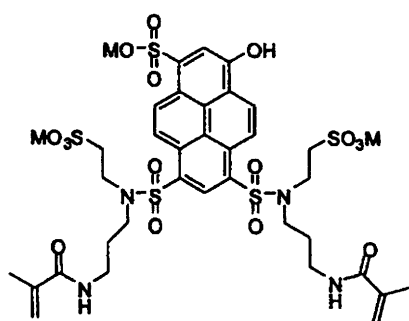


(式中、Mは対イオンである)。

## 【請求項 1 6】

化合物：

## 【化 1 4】

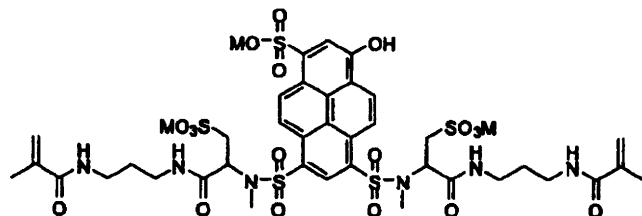


(式中、Mは対イオンである)。

## 【請求項 1 7】

化合物：

【化 1 5】

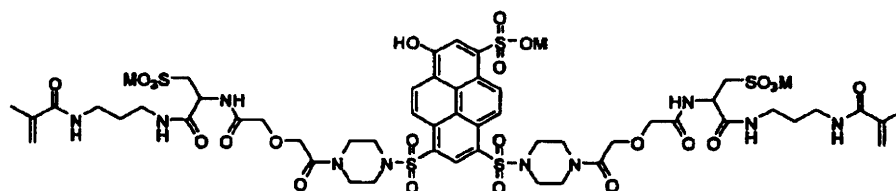


(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 1 8】

化合物：

【化 1 6】



(式中、Mは対イオンである)。

【請求項 1 9】

請求項 1 又は 1 1 に記載の化合物を含む、ヒドロゲル。

【請求項 2 0】

請求項 1 又は 1 1 に記載の化合物を含む、グルコースセンサ。

【請求項 2 1】

ボロン酸を含む消光剤部分をさらに含む、請求項 2 0 に記載のグルコースセンサ。